



ごあいさつ

菊池園 施設長 福原 孝明

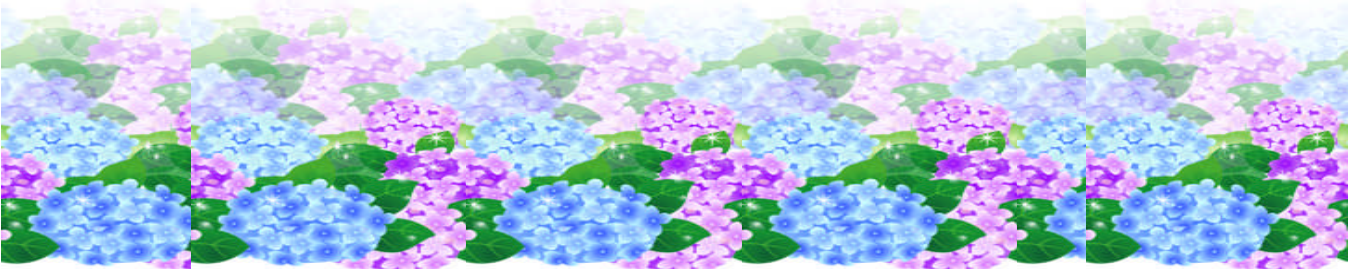


この4月から、菊池園に施設長として勤務いたしております福原と申します。私は今年3月に熊本県を退職し、今回縁あってお世話になっております。

県在任中、福祉関連の仕事への関わりは多くはありませんでしたが、退職までの3年間は、宇城市松橋の「熊本県こども総合療育センター」に勤務しておりました。このセンターは障がい児の入所・通園事業や県内各地域の療育センターへの技術支援などを行っておりますので、菊池園が掲げております「利用者個人の尊厳を大切にし、利用者が心身ともに健やかに、その人に応じ自立した日常生活を送れるよう支援する」という基本理念にも非常に共通するものがあります。

ところで、皆さん御承知のとおり、昨年は未曾有の大震災が日本中を震撼させました。この震災直後から復興に向かう動きの中で、人と人との「絆」が再認識され、人々の心の支えや生きる力の源としてクローズアップされています。

当園においても、利用者の皆さんの毎日の暮らしの中で、互いに「絆」を深め合い、生き生きとして幸せを実感しながら充実した生活を送れるよう、当園スタッフとともに施設運営を心掛けていきたいと思っています。



～施設内研修～ 千草寮編

千草寮では、心肺蘇生法やAEDの取り扱い方、感染予防法や皮膚疾患や誤嚥時の対応の仕方などの研修を行っています。

1月には業者の方を招き手洗い方法の確認を行いました。手に特殊なジェルを塗り手洗いした後、ジェルが白く写る器械を使って手を観察したところ、手が白く濁って写り、ジェルがほとんど残っているのに驚きました。再度、今度は時間をかけ丁寧に洗ったつもりでしたが、あまり変化がなくショックを受けました。日に何回も手洗いをしていますが、ほとんど汚れは取れていないという事に改めて気づかされました。手はあらゆるところに触れ感染経路になりやすいので、感染を防ぐためにせっけんをよく泡立て、時間をかけ丁寧に細かいところまで洗い、きちんと洗い流すという習慣を身につけ、職員だけではなく利用者の方々にもきちんと伝えていきたいと思っています。



施設名	施設長名	所在地	定員	開設年月日	電話番号
友愛会銀杏寮	本山 雅徳	熊本市西区春日5丁目17番36号	60	S35. 12. 1	096-352-6602
しらがね寮	一安 俊範	球磨郡あさぎり町上西835-2	50	S43. 4. 1	0966-45-6668
天草園	三宅栄一郎	天草市河浦町宮野河内3662-2	70	S43. 12. 10	0969-78-0053
菊池園	福原 孝明	菊池市泗水町吉富17-1	50	S47. 10. 11	0968-38-2956
野坂の浦荘	永山 恵一	葦北郡芦北町大字田浦町358-2	50	S55. 5. 1	0966-87-2277
真和館	藤本 和彦	阿蘇郡西原村大字鳥子3072	50	H18. 4. 28	096-279-1121
千草寮	片山 辰己	八代市千丁町太牟田2618	50	H21. 4. 1	0965-46-0032

役職員名簿			
役職名	職名	氏名	施設名
会長	施設長	藤本 和彦	真和館
副会長	施設長	永山 恵一	野坂の浦荘
監事	施設長	片山 辰己	千草寮
事務局	事務員	平畑 佳朗	真和館



研修委員会			
役職名	職名	氏名	施設名
委員長	施設長	一安 俊範	しらがね寮
副委員長	生活支援員	藤本 健作	天草園
委員	介護スタッフ	澤田 理美	銀杏寮
〃	介護支援員	津田 幸代	菊池園
〃	介護支援員	本山 優子	野坂の浦荘
〃	指導員	田上雄次郎	真和館
〃	介護支援員	坂口浩司郎	千草寮

事業検討委員会			
役職名	職名	氏名	施設名
委員長	施設長	福原 孝明	菊池園
副委員長	生活支援員	松中 直人	天草園
委員	介護スタッフ	吉住 栄一	銀杏寮
〃	介護職員	那須 貴仁	しらがね寮
〃	介護支援員	前川 真	千草寮
〃	介護支援員	赤山 義雄	野坂の浦荘
〃	介護職員	森田 良治	真和館

調査・研究委員会			
役職名	職名	氏名	施設名
委員長	副施設長	三宅 浩徳	天草園
副委員長	指導員	田上 成美	野坂の浦荘
委員	生活支援員	中島 里美	菊池園
〃	介護職員	小田 敏宏	しらがね寮
〃	指導員	今池 有香	真和館
〃	介護支援員	西濱 久代	千草寮
〃	相談員	淵上慎一郎	銀杏寮

新任職員紹介

友愛会銀杏寮
介護スタッフ 中村きよみ
介護スタッフ 吉武 和子
介護スタッフ 田中小百合

しらがね寮
介護職員 岩崎 誠
事務員 工藤 理恵

野坂の浦荘
介護支援員 松永 明子

菊池園
事務員 野嶋 将平

事業検討委員会

【平成23年度事業報告】

■救護施設交流会

23年度は、パークドームにてグラウンドゴルフ・ニチレクボールの2種目を計画し、グラウンドゴルフに90名、ニチレクボールに15チーム45名がエントリー、利用者・職員・来賓・ボランティア審判の総勢約230名の参加を頂き、たいへん大きな交流会となりました。

グラウンドゴルフは、他施設の利用者や福祉事務所との親睦を図りながら参加者個々がプレーを楽しみ、ニチレクボールについては施設対抗の団体競技のため、予選ブロック・決勝トーナメント共に白熱した交流戦が繰り広げられ、応援団も含めてたいへんな盛り上がりを見せました。

福祉事務所と各施設の利用者・職員と一緒に競技を楽しみ、普段では出来ない交流が図られとても有意義な大会となった。

■事業検討委員会

平成23年	5月	第1回事業検討委員会 ・交流会最終打ち合わせ
平成23年	6月	第2回事業検討委員会 ・交流会の反省 ・今後の交流会のあり方について
平成23年12月		第3回事業検討委員会 ・次年度救護施設交流会について
平成24年	2月	第4回事業検討委員会 ・次年度救護施設交流会について ・平成24年度事業計画及び予算について

【平成24年度事業計画】

■救護施設交流会

開催日:平成24年5月
場 所:ウイングまつばせ
内 容:スポーツ交流(ニチレクボール・輪投げ)・文化交流(展示・舞踊・合唱・カラオケ等)

■事業検討委員会

平成24年	5月	第1回事業検討委員会 ・交流会最終打ち合わせ
平成24年	6月	第2回事業検討委員会 ・交流会の反省
平成24年12月		第3回事業検討委員会 ・次年度救護施設交流会について
平成25年	2月	第4回事業検討委員会 ・次年度救護施設交流会について ・平成25年度事業計画及び予算について

研修委員会

【平成23年度事業報告】

■職員研修会報告

第1回	H23年6月16日(木)	参加者33名
午前	講話	自立支援に向けた取り組みについて
	講師	熊本授産場 施設長 丸山 義行様
午後		職種別によるグループ討議

第2回	H23年10月18日(火)	くまもと県民交流館パレア第1会議室
	参加者94名	(九救協34名、福祉事務所他25名、熊救協35名)
		こころの病気(精神障がい)に関する研修会

午前	講話	精神障がいについて
	講師	弓削病院 医師 庄野 昌博様
午後	講話	統合失調症について
	講師	菊池有働病院 院長 大塚 直尚様
	講話	アルコール依存症について
	講師	益城病院 副院長 松永 哲夫様

■研修委員会開催

第1回	H23年4月22日(金)	菊池園、	第2回	H23年7月29日(金)	銀杏寮
第3回	H24年1月19日(木)	千草寮			

■平成24年度事業計画

社会福祉基礎構造改善改革に伴う利用者の権利擁護、情報公開、サービス評価基準、苦情解決制度等、福祉新時代に対応していくためには、職員の意識改革ならびに職員資質の向上が不可欠である。引き続き利用者サービスの質の向上に重点を置き、利用者支援研修を主体的に実施することで、専門職としての資質の向上を図る。

■研修会

第1回	H24年7月12日(木)	天草園
午前		天草園視察研修
午後		職種別によるグループ討議
第2回	H24年10月3日(水)	
会場		くまもと県民交流館パレア第1会議室
		講師については、検討中

■研修委員会

年3回(4月19日(木)(しらがね寮)、8月7日(火)(野坂の浦荘)、
1月22日(火)(銀杏寮) 予定
※場合によっては、臨時の委員会を開催する。

調査・研究委員会

【平成23年度事業報告】

■委員会の開催

第1回:	平成23年	4月15日(金)	(千草寮)
第2回:	平成23年	10月21日(金)	(野坂の浦荘)
第3回:	平成24年	2月15日(水)	(銀杏寮)

■熊救協広報誌の発行

熊救協第18号(6月発行) 熊救協第19号(1月発行)

■熊救協ホームページの更新

平成23年	6月	(熊救協役員名簿、施設概要等の更新・マニュアルの更新)
平成23年	9月	(熊救協広報誌バックナンバー第18号の追加)
平成23年10月	(10月1日現在の施設概要更新)	

■入所時対応マニュアルの見直し

■通所事業、居宅生活訓練事業等の実行、活用に伴う問題点等の調査結果(九救協事務局調査)分析について

【平成24年度事業計画】

■委員会の開催(4月・10月・2月)

■熊救協広報誌の発行(6月・1月)

■熊救協ホームページの更新関係

・熊救協役員名簿等の更新 ・各施設利用者状況等の更新 ・マニュアルの掲載

■個人情報の取り扱い等に関する同意書作成について

平成24年度 熊本県救護施設交流会

去る5月17日宇城市の「ウイングまつばせ」にて、熊本県救護施設交流会が実施されました。利用者・来賓・施設職員の総勢約200名の参加を頂き、盛大に開催することが出来ました。これも一重に、県本庁はじめ県・市福祉事務所のご協力と、大会の主人公である利用者の皆様方に多数ご参加頂いた賜物であります。改めまして深く感謝申し上げます。

救護施設交流会は、スポーツや文化交流を通じて利用者の親睦を深めると共に、日々の生活の中で、大会に向けての練習や展示作品の準備等を行うことで、年間を通してやりがいや楽しみの時間を多く見つけることで、生活の質の向上に繋がること等を目的に実施しています。

今年の大会は、今までのスポーツ交流に加え文化交流を新たに加わえることによって選択肢が広がり、よりたくさんの利用者が参加出来る交流会になったと思われます。

まず、午前中にスポーツ交流を実施。ニチレクボールに27チーム(利用者チーム25、福祉事務所・施設長チーム2)が参戦、白熱した熱戦が繰り広げられ、特に施設長チームとの対戦時は、利用者チーム同士の対戦以上に気合が感じられたいへん盛り上がる等、普段とは違う有意義な交流が図られました。

輪投げは、施設対抗団体戦で実施。7チーム52名が参加、チームの合計点数ではなく一人当たりの平均点で順位を決めるため、参加人数に制限されることなく少ない人数での参加も可能となり、団体戦でありながら競技事態は個人プレーのため、参加者がそれぞれのペースで楽しむことが出来たと思われます。

お昼の1時間、昼食と展示物の見学を行いました。各施設のブースに、書道・俳句・手芸・絵画・生け花・アートフラワー・紙細工・ししゅう・刺し子・折り紙・木工細工・施設内の掲示物等たくさんの展示物が綺麗にディスプレイされ、豪華な展示会場となりました。どの作品もとても素晴らしく、中には芸術家の作品と思われるような凄い作品もあり、利用者個々の潜在能力と可能性を改めて認識させられました。

午後の文化交流では、はじめにグループ発表が行われました。施設職員による楽しい踊りでスタートし、ピアノによる独唱、歌謡ショー、合唱、劇白鳥の湖が発表されました。どの出し物もとても完成されていて、見ている観客に笑いと感動を与える素晴らしい内容でありました。次に各施設のカラオケ自慢の利用者によるカラオケ発表会が行われました。この大会に備え、歌の練習を重ねると共に思い思いの衣装を準備され本番に臨まれただけあって、皆さん歌も上手な上にとても雰囲気があり、見ている人を本当に楽しませて頂きました。しかし、何よりも参加者の皆さんが、とても気持ち良さそうに歌われていたことが一番良かったと思います。

今回、交流内容を大きく変更して計画したことにより、各施設練習や準備等でたいへんご苦労されたと思います。今後益々高齢化・重度化が進み、大会実施自体も難しくなる時期も来るかと思いますが、利用者のよりよい生活環境の向上を目指し、県下の救護施設が一体となって取り組んで行ければと思いますので、今後も、各方面の関係各位の皆様方には色々な面でご迷惑をお掛けすることが多々あるかと思いますが、今後ともご協力を賜りますようお願い申し上げます。



